

昭和61年度

夏山合宿報告書

CL 町田 修

SL
会計 小幡 富士夫

気象
匠務 伊藤 隆文

食糧
装備 大矢 康裕

塚本 英吾

電友会山岳部 町田 (記)

8/19

昭和61年夏山合宿報告

小幡

8/10 晴のちかす

新穂高 — ツルビ平 — 秩父沢 — 大ノマ乗越分岐下 — 鏡平尾 —
 7:35 9:05 9:15 10:30 12:10 12:30 13:05 14:00
 双六キャンプ場
 15:55

前日は乗鞍スカイライン手前の道路わきにテントを張って泊まった。やや寝不足気味で、日はカンカン照り、荷は重い。合宿初日は、いつもどおり、秩父沢で林けい後、塚本さんはやや遅れ気味、途中でパーティを2つに分け、鏡平で合流した。その後も2つに分かれ、先行パーティは双六キャンプ場でテントを張ったあと、大矢君が、むかえに行つた。20~30分でもどって来たので、そうはなれてはいなかったようだ。

8/11 晴のちかす

双六キャンプ場 — 弓折岳 — 秩父平 — 笠ヶ岳 — 笠ヶ岳山荘
 4:45 5:35~5:50 6:40 6:50 9:00 9:05 9:10~9:45
 秩父平 — 双六キャンプ場
 11:00 11:15 13:10

御来光は残念ながら雲がかかってみえず。槍・穂も逆光しかかすでシルエットしか見えず、あまりスウツシない。しかし荷は軽いので、軽快に歩く事ができる。笠ヶ岳頂上はかすで視界ゼロ、記念写真をとただけで、5分で下山。笠ヶ岳山荘前でコーヒーをわかし、林けいする。秩父平は、お花畑と雪けいと秩父岩の奇岩が、マツチしたいい所だ。

8/12 晴時々曇

双六キャンプ場 — 三俣蓮華岳 — 黒部五郎キャンプ場 — 黒部川出合
 4:20 6:40 7:50 8:40 9:30 9:45
 赤木沢出合
 10:40

懐電をつけて出発、燕岳方面の雲があかね色にはなつたが、きつと御来光をおかめず、昨日に比べ、かすのかかる時間が早くなつている。天候はどうも不定である。三俣蓮華岳はかすの中で、林けいもせず通りすぎる。黒部五郎小舎は、三角屋根でメルメソックな小屋だ、なかなか感じいい。黒部川本流へは五郎沢を下る、途中まで小径が沢がいたついている。途中からは、ゴーロの中を下る。本流は思つていたより、水量は少ない。本流が1と、今で赤木沢出合。川幅は、10mの滝が2つかかっている所が出合だ、赤木沢入口かすこん感じがいいかす。明日の沢登りが楽しみだ。出合の少し下流の砂地にソエルトを2張張る。あまつた明向は、水あびと昼寝。

8/13 かす時々晴

赤木沢出合 — 35m大滝 — 赤木平への分岐 — 中俣乗越 —
 5:10 6:40 6:55 7:15 8:10 8:35
 黒部五郎岳 — 黒部五郎キャンプ場
 10:00 10:20 11:40

いつものように3時に起床したが、明るくなるのをまって出発、沢の入口は高巻いたが、あとは、ナメ滝と、2~5mの滝で快適に直登できる。明るく美しい沢だ。一ヶ所登れそうな滝があったが、釜が大きく取りつきまで行けそうにないので高巻いたが、塚本さんは残念そうだった。35mの大滝は、人工でなければ不可能、右手の草付を小さく高巻く、その後も、ナメ滝が続く、水がなくなるし、小さな雪けいがあるわい、その後はお花畑、せぶこぎが左なくなり、縦走路である。奥美濃の沢登りとは大違い。黒部五郎岳はまたかすの中、五郎のカールかすは黒部五郎岳の岩場がよく見え、気持ちのいい所だ。12時前にはキャンプ場に着いたが、きつものんびりした。

8/4. 晴風。1.

黒部乗越 ~ 三俣山荘 ~ 雲ノ平 ~ 高天ヶ原

起床 3:00

出発 4:40 ~ 5:20₃₀ ~ 6:05₁₅ 三俣山荘 ~ 双六分岐 (伊藤君別荘)

7:10₃₀ 三俣山荘 ~ 8:30₄₀ 雲ノ平手前 ~ 9:20₃₀ 双六分岐

雲ノ平山荘 10:30_{11:05} ~ 12:20₃₅ ~ 13:05 高天ヶ原山荘

伊藤隆文君下山 (三俣 ~ 双六 ~ 新穂高温泉)

・三俣山荘へ余分の荷物を預ける。
(高天ヶ原キャンプ禁止)

荷物の軽さを手伝い、雲ノ平割では、皆快適に歩きながら、回りの山々を観察していた。雲ノ平からは、薬師、黒部五郎の勇姿が在り派である。又、頭だけ出した笹ヶ岳や、少し趣むきの妻木木岩峰の水晶岳など、飽きることのない景色である。

高天ヶ原への下りは急で、登山には使いたくないルートである。山荘は、想像以上に混んでおり、テント生活の快適さを感じた。黒部川の水砦に繞る。この日は、温泉でゆっくり、くろく。

8/15. 曇り後雨


高天ヶ原山荘 ~ 温泉沢 ~ 赤牛岳 ~ 水晶岳 ~ フシバ岳
~ 三俣山荘

起床 3:00

出登 4:25 ~ 5:15 (30) 温泉沢分岐 ~ 6:40 (50) 2650

7:25 温泉沢の頭 (塚本部長と別れる。
7:43 出発 ~ 8:25 (44) 赤牛岳

9:45 (55) 温泉沢の頭 ~ 10:43 (55) 水晶岳 ~ 11:15 (12:00) 水晶小屋

13:07 (17) フシバ頂上 ~ 13:35 三俣市場着 

温泉沢の取付が高天ヶ原の露天風呂になっており、朝一番、5:00ころ通過すると2人程早くも風呂に入った。温泉沢は崩壊がひどく、ほとんど丁-口の沢である。私達は途中から尻根に取付き(道前)温泉沢の頭に出る。15日は天気が悪く稜線はガスの中である。温泉沢の頭から、塚本部長を除く3名は赤牛岳を往復する。水晶小屋に着くと、2時間余り待った部長が寒そうに出向かえてくれた。

水晶小屋からは裏銀コースからの登山客が多くにぎやかである。一気にフシバに登り、三俣へ下った。

8/16 曇り後晴

三俣山荘 ~ 双六小屋 ~ 鏡平

起床 2:00 ~ 7:45 平 ~ 新穂高温泉

出発 3:50 ~ 4:30) 三俣分岐 ~ 5:10) ~

6:35) 双六、鏡平、中間 ~ 7:45) 鏡平小屋 ~

7:00) 沢 ~ 10:15) 7:35) 7:45) 7:50) 7:55) 8:00) 8:05) 8:10) 8:15) 8:20) 8:25) 8:30) 8:35) 8:40) 8:45) 8:50) 8:55) 9:00) 9:05) 9:10) 9:15) 9:20) 9:25) 9:30) 9:35) 9:40) 9:45) 9:50) 9:55) 10:00) 10:05) 10:10) 10:15) 10:20) 10:25) 10:30) 10:35) 10:40) 10:45) 10:50) 10:55) 11:00) 11:05) 11:10) 11:15) 11:20) 11:25) 11:30) 11:35) 11:40) 11:45) 11:50) 11:55) 12:00)

41号線 ~ 中央道 ~ 東名 ~ 刈谷

食糧も予定通り消化し、下山日の16日は荷物も軽い。槍穂はかすの途中で双六かすの下は等は見せなかった。塚本は鏡平かすの下を懸念していたがたいては遅くもなく7:45平へ着いた。新穂高で村営の無料風呂(登山客でしか洗いに)に入り、サウナリ。一路刈谷へ帰る。

(後記) 部長に干-ア-サカに、新人2名の異色の1ペアだったが、ありとメンバーシップも良く、楽しい山行、テイク生活も送せた。新人2名は、大学時代、カンケルで鍛えており、特に、テイクでは、1人も1人存在があった。又、塚本部長も良くかかっていた。ゆかいた、有意義な合宿であったと思う。

8/20 (16)

